



男女共同参画に関する 市民意識調査結果報告書

ダイジェスト版

調査の概要

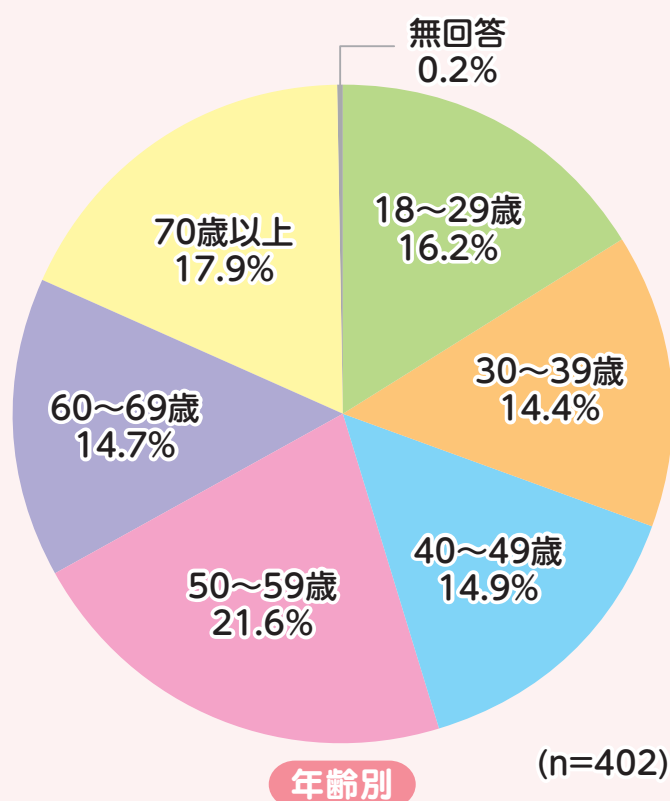
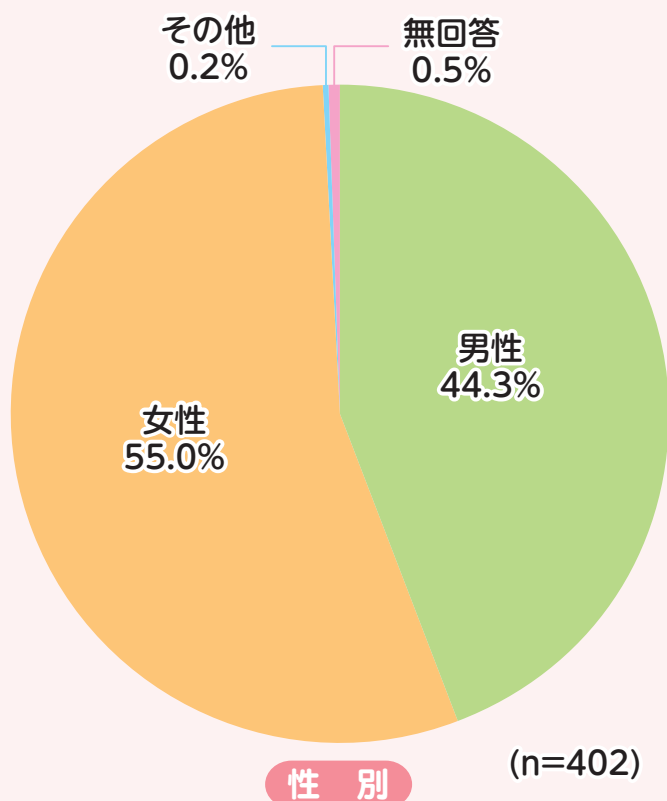
調査期間 令和3年8月17日～31日

調査対象 多治見市在住の18歳以上の男女1,000人(無作為抽出)

有効回答数 402件(回収率40.2%)

本調査は、男女共同参画に関する意識を把握し、「第3次たじみ男女共同参画プラン後期計画」の策定及び今後の男女共同参画社会推進に関する施策の検討資料とするために実施しました。

回答者の属性



調査結果の見方

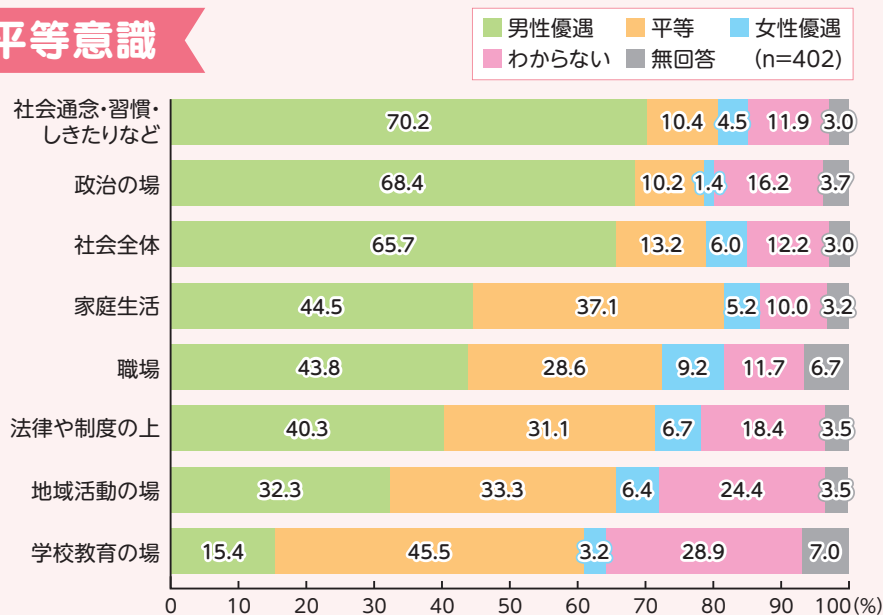
集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が、100.0%にならない場合があります。

1 男女平等意識について

各分野における男女の地位の平等意識

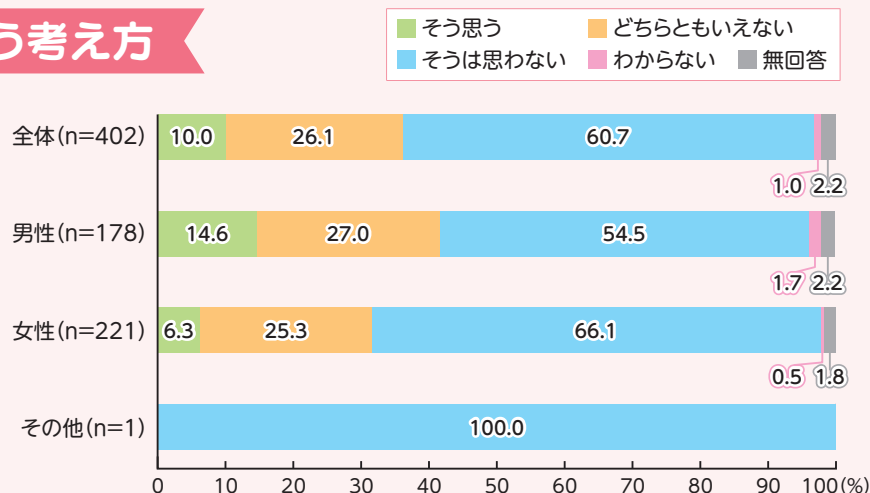
多くの項目で「男性優遇」と感じている人が、「平等」、「女性優遇」と感じている人を大きく上回っています。特に、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」、「社会全体」に対する「男性優遇」の回答は6割を超えており、依然として男女の地位が平等であると考えられていないことがうかがえます。

一方、「学校教育の場」では、「平等」が4割程度と他の項目と比較して最も高くなっています。



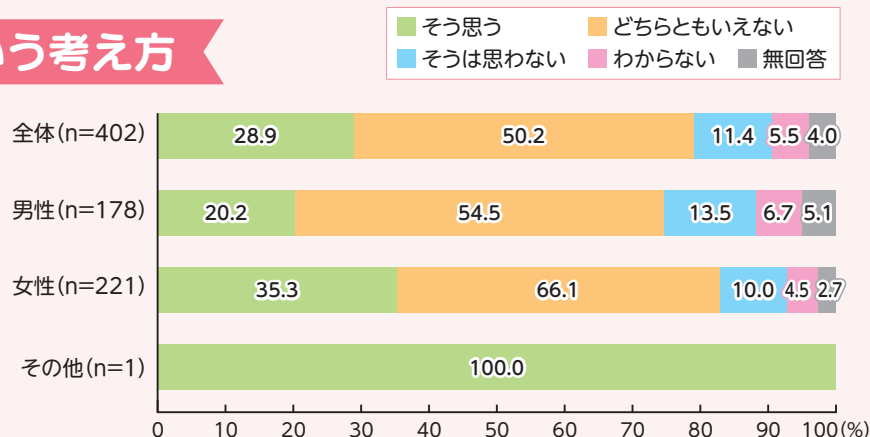
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方(性別役割分担意識)について、全体の6割以上が「そうは思わない」と回答しています。男女別で見ると、男性より女性の方が「そうは思わない」と回答する割合が高くなっていますが、男女ともに過半数が「そうは思わない」と回答しています。



「女性が仕事を続ける」という考え方

「女性が仕事を続ける」という考え方について、全体の3割程度が「そう思う」と回答しています。男女別で見ると、男性より女性の方が「そう思う」と回答する割合が約15%高くなっています。

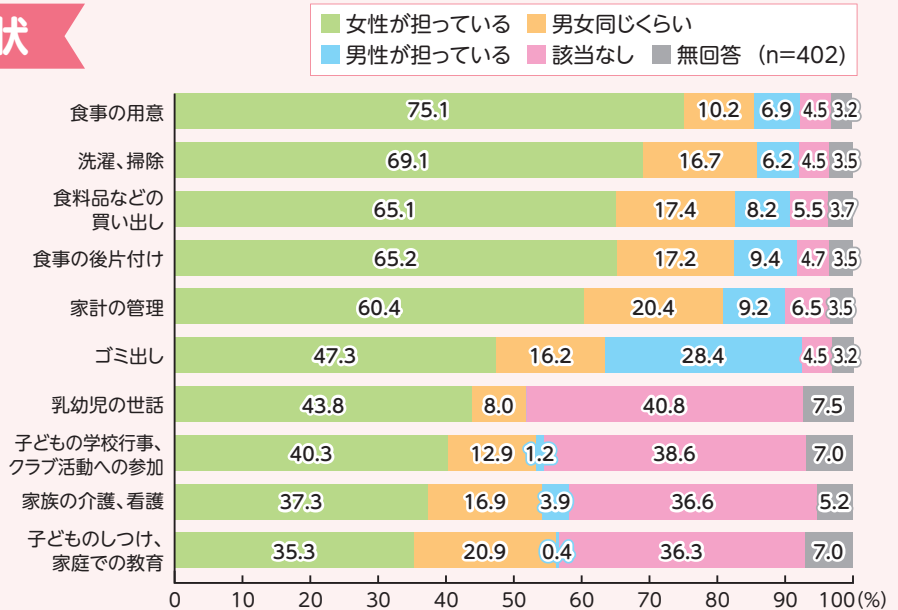


2 仕事と家庭等の両立(ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》)について

家庭での男女の役割分担の現状

家庭での男女の役割分担について、多くの場面で「女性が担っている」との回答が多くなっており、特に「食事の用意」、「洗濯、掃除」、「食料品などの買出し」、「食事の後片付け」、「家計の管理」の5項目は全体の6割以上が「女性が担っている」と回答しています。

また、「男性が担っている」が最も多い項目は「ゴミ出し」となっており、「男女同じくらい」が最も多いのは「子どものしつけ、家庭での教育」となっています。



仕事と家庭の両立について望むこと

男女がともに「仕事と家庭を両立」するための必要な条件については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が最も多く、次いで「柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制、在宅勤務等)」、「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」となっています。

●仕事と家庭の両立について望むこと【上位5項目】(複数回答)

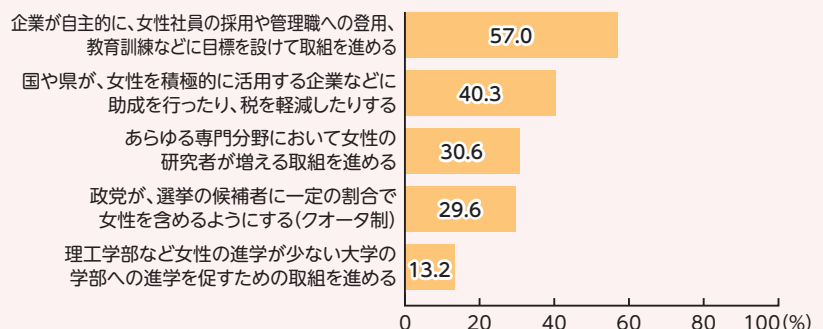
順位	項目	(n=402)
第1位	年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり	43.0%
第2位	柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制、在宅勤務等)	30.1%
第2位	働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力	30.1%
第4位	代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり	27.6%
第5位	労働条件の改善	27.4%

3 地域活動について

女性の社会進出

女性の社会進出があまり進んでいない分野への女性の進出を進めていくために必要なことは、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」が最も多く、次いで「国や県が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする」、「あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める」となっています。

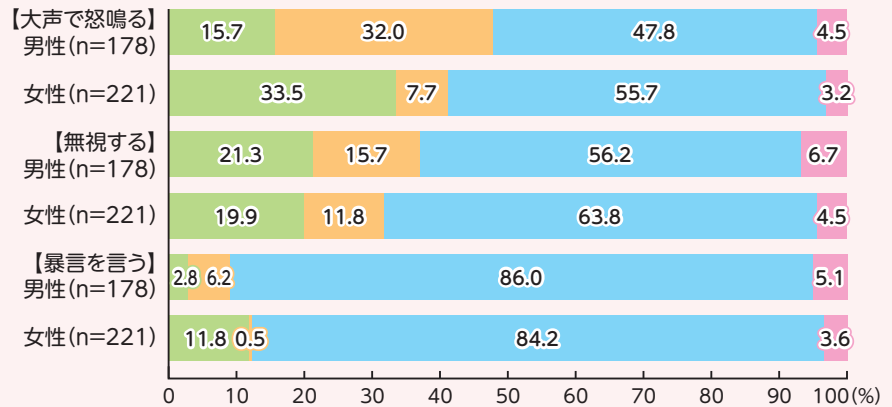
●女性の社会進出があまり進んでいない分野への女性の進出を進めていくために必要なこと【上位5項目】(複数回答)



4 DV(ドメスティック・バイオレンス)等「女性の人権」について

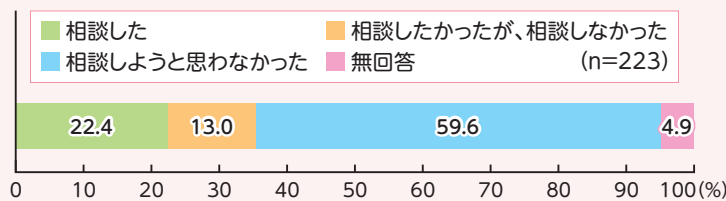
配偶者や恋人からの暴力など

受けたことがある暴力などでは、「大声で怒鳴る」、「無視する」、「暴言を言う」といった精神的暴力が多く、特に「大声で怒鳴る」、「暴言を言う」については、男性に比べて女性が多く経験しています。

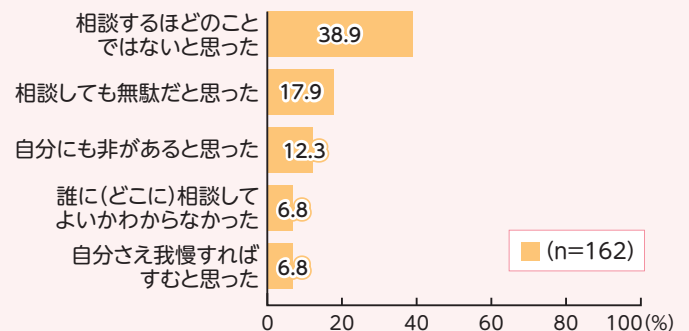


あなたが暴力などを受けた時、誰かに相談しましたか

DV経験のある人に対し、誰かに相談したかを尋ねると、「相談した」との回答は22.4%となっています。また、相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」との回答が最も多くなっています。



● DVを受けて相談しなかった理由【上位5項目】(複数回答)

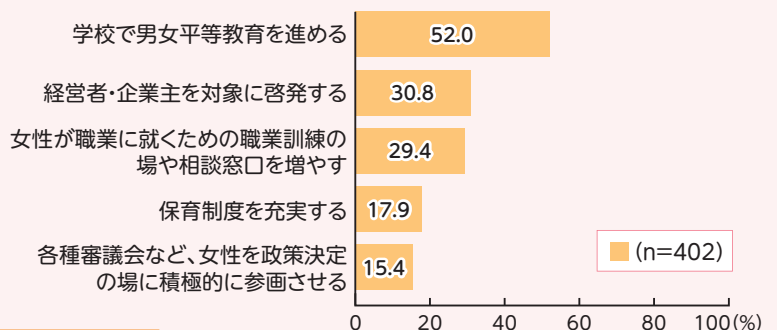


5 男女平等実現のために力を入れるべきこと

男女共同参画社会を形成していくために

男女平等実現のための市の施策として、市に望むことについては、「学校で男女平等教育をすすめる」との回答が最も多く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」、「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」となっています。

● 市の政策として望むこと【上位5項目】(複数回答)



編集・発行

岐阜県多治見市環境文化部くらし人権課

〒507-8703 岐阜県多治見市日ノ出町2丁目15番地(本庁舎)

TEL 0572-22-1128(直通)

FAX 0572-25-7233

E-mail kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp



※この調査の詳細な内容は、市役所(本庁舎)1階市政資料コーナーや市のホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.tajimi.lg.jp/kurashi/jinken/danjo/shiminisikicyousa.html>